

「トイレの確保忘れないで」

十和田市立中央病院は19日、市民あんしん生活活用講座を開催した。同病院消化器病センター長で日本D.M.A.T隊員・統括D.M.A.Tの藪内伸一氏が講演し、2024年1月の能登半島地震に対応した経験などから「飲食物の備蓄は重要だが、トイレの確保も忘れてはいけない」など、災害への備えについて語った。以前から災害対応について病院スタッフに訴えてきたとの職員が自主参集し、機運の（12月8日夜）本県東方沖地震では多くの職員が自主参集し、機運の（三浦康平）

十和田



災害への備えについて講演する藪内氏

高まりを感じた」と手応えを語った。

今回は十和田市に大きな被害はなかったが油断せず、日頃からハザードマップなどを確認し、想定される被害や避難所への移動方法を考える必要があると強調。物流が途絶える可能性から、飲食物などの備蓄は7日分は必要とした。

また、D.M.A.Tとして能登半島地震の救援に駆けつけた経験を振り返り、「電気や水道よりも下水の方が復旧に時間がかかる。イベント用の移動トイレは和式で手すりがないなど不都合が多く、避難所のトイレは人が多く汚れやすい。トイレを我慢しようと食事や水分補給を控えるとエコノミークラス症候群のリスクが高まる」として、個人宅で使える簡易トイレの準備を呼びかけた。

講演には市民ら約30人が参加した。（三浦康平）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。